

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

商業教育を中心とした学びからグローバル社会を力強く生き抜いていく力を養成し、社会に貢献できる人材の育成をめざす。
1. 自ら学ぶ意欲・態度の醸成を図るとともに、基礎学力を定着させ、社会のニーズに応えられるようにキャリア教育を充実させる。
2. 基本的生活習慣の確立を柱に、全教育活動を通じて、社会人基礎力を育成する。
3. 活力あるビジネス教育を推進し、正しい職業観や勤労観を育成し、グローバル社会を生き抜く力を養う。
4. 地域に根差した専門高校として、地域との連携を積極的に行い、地域社会に貢献できる資質を育成する。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成
（1）基礎学力の定着と授業形態の改善
ア 生徒の実態を把握し、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を図る。
イ 将来を見据えて積極的に課題に取り組む姿勢を醸成し、特に PBL（問題解決型学習）を重視し、主体的・協働的に問題を発見し、解決する能力を養う。
ウ 教員の授業力向上をめざして、研究授業・授業見学を積極的に行い、授業の改善に取り組む。
※授業アンケート「先生は生徒の意見や要望を取り入れ、授業改善に生かしている。」が 3.3 以上を維持する。
（R4：3.3, R5：3.3）
※公開授業を年 1 回以上全教員が実施し、指導方法を全体で共有するとともに授業見学観察シートの提出等で研鑽に努める。
（2）ビジネス教育を通じて、力強く生き抜き、未来を切り拓くための学力の向上
ア 体験的学習を通じて、実学としての必要な専門性の深化を図る。
イ 問題解決型学習として「商品開発」に取り組み、グループワークを通じて、コミュニケーション能力やプレゼンテーション力を向上させる。
ウ 検定等の資格取得において目標を明確にし、積極的に取り組む姿勢を育成するとともに、上位級（1・2 級）取得をめざす。
エ ビジネス関連の各種大会に積極的に参加・チャレンジする姿勢を醸成する。
※各検定の 1・2 級合格者数において過去 3 年間の平均を上回ることを目標とする。（3 年間平均 簿記 104 人, 情報処理 43 人）
※生徒商業研究発表大会やビジネスアイデア甲子園等、ビジネス関連の大会に積極的に参加し入賞をめざす。
2 心豊かに力強く生き抜く力の育成
（1）自律する心、他者と協調し人を思いやる心の育成
ア 命の大切さ、いじめ、SNS、LGBT など今日的な課題を重点とした人権教育の更なる充実を図る。
イ 生徒の多くが自己肯定感を持てるよう、生徒一人ひとりへの個に応じた指導、支援体制の確立に努める。
ウ 基本的生活習慣の確立とともに、社会人として必要な規律ある態度を育てる。
エ 学校行事や部活動などを通して、集団活動に取り組む機会を設定し、望ましい人間関係の構築やチームで活動する意識の向上を図る。
※人権教育課題の講演会を年 5 回以上実施する。
※学校教育自己診断において「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」という肯定的評価が 80%以上になることを目標とする。（R4：83%, R5：78%）
※年間遅刻数を令和 7 年度までに 800 以下にする。（R3：748, R4：1294, R5：1937）
※部活動加入率を令和 7 年度までに 70%をめざす。（R3：56.3%, R4：60.0%, R5：49.7%）
（2）生徒が目標とする進路に向けた支援
ア 進路について、興味・関心、適性などを踏まえ生徒が自主的に明確な目標を持つために進路決定能力の育成に努める。
イ 多様な進路実現に向けて、生徒一人ひとりの進路希望に応じたきめ細かい支援を行なう。
ウ キャリア教育や地域連携を充実させ、生徒の進路意識の高揚を図る。
※就職内定率 100%を維持する。（R3：100%, R4：100%, R5：100%）
（3）健康保持増進に関する正しい知識を身につけさせる。また、環境美化を通じて、施設設備を大切にする心の育成に努める。
3 広報活動の充実
（1）社会のニーズに応えることのできる学校づくりをめざし、ビジネス教育の有効性や取組を周知できるように広報活動を充実させる。
ア 中学校訪問や出前授業を積極的に行い、ビジネス教育への理解を促進する。
イ 体験入学・学校説明会の充実を図り、商業高校の取組みと多様な進路選択が可能であることを広報する。
ウ 学校案内やリーフレット、ホームページにおいて本校の取組を積極的に広報し、広く理解を得る。
エ 地域イベントに積極的に参加し、地域活性化に取り組むとともに本校生徒の活動を周知する。
※中学校訪問の学校数を令和 7 年度に年間 150 校をめざす。（R3：94, R4：55, R5：77）
※体験入学・学校説明会参加者が募集定員を超えることを目標とする。（R3：205, R4：360, R5：389）
4 仕事の効率化と働き方改革の推進
（1）ICT を活用して、校務に関する作業の効率化を図る。
ICT を活用することで情報共有を推進し、会議時間の短縮とペーパーの削減を図る。
（2）職場環境の改善を図る。
ア 働き方改革を踏まえ、時間外勤務時間の縮減を図る。
イ 安全衛生委員会を活用し、職場の安全管理と教職員の健康管理体制の充実を図る。
※令和 7 年度までに時間外労働月 80 時間以上の教員数の 20% 縮減を図る。（R3：25, R4：17, R5：10）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【生徒回答】 高評価（80％以上） 2 先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。（82.2％） 5 将来の進路や生き方について考える機会がある。（85.2％） 7 文化祭は、楽しく行えるよう工夫されている。（85.2％） 8 体育祭は、楽しく行えるよう工夫されている。（88.5％） 9 命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。（90.3％） 11 授業などでコンピュータやプロジェクター等のＩＣＴ機器を活用している。（93.8％） 低評価（60％未満） 10 学校のホームページをよく見る。（57.4％） 【教員回答】 高評価（90％以上） 4 教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる。（90.0％） 10 教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている。（93.3％） 低評価（60％未満） なし 【保護者回答】 高評価（80％以上） 5 学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。（89.8％） 6 学校は、子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。（85.6％） 7 学校は1人1台端末を効果的に活用している。（90.8％） 9 学校は、教育情報について、提供の努力をしている。（80.2％） 低評価（60％未満） 10 学校のホームページをよく見る。（58.6％） 今年度の結果を、高評価（肯定的回答 80％以上・教員のみ 90％以上）低評価（肯定的回答 60％未満）を基準とし、分析を行った。 1人1台端末の活用について、生徒・教員・保護者からそれぞれ満足度・達成度が継続して高い。さらに充実した取組となるよう次年度も継続して取り組む。 学校行事や進路指導等についても満足度が高く、引き続き充実した取組となるよう工夫を重ねる。 いじめへの対応について、生徒の満足度が高くなっている。さらに充実した体制作りを継続して進めていく。 学校ＨＰについては内容の充実等を図り、情報発信のツールの一つとして更なる活用を進める。	【第1回】 令和6年7月1日 ・ＩＣＴを活用した授業として、プロジェクターを利用した教科書、プリントの投影やフォーム作成ツールによる振り返りシートの集約などを行っているが、更なる活用を進めるのがよい。 ・定員割れによる府立学校の統廃合対象になる件について、商業科のメリットである就職できる点、資格取得、指定校推薦を利用した大学進学などを今まで以上にＰＲしていくべきである。また、出前授業や体験入学などのＰＲをさらに積極的にやっていく。 ・ＳＮＳを利用した学校紹介を行うことについて、ぜひ積極的に取り組んでいただきたい。 【第2回】 令和6年12月2日 ・出前授業は、できるだけ継続的に引き受けてほしい。 ・就職関係について、有名な企業から求人がきているようだが、人材不足を追い風に就職が有利な点について、中学校にアピールしてほしい。 ・基礎学力について、年々生徒の読解力が落ちてきている。授業中に問題集の問題の意味を聞かれることもよくある。対策をとる必要があるのではないか。 ・1人1台端末をさらに活用して、教育内容の充実をすすめてもらいたい。 ・公開授業について、あまりうまく活用できていないようなので、教職員の研鑽の場となるよう工夫をしてほしい。 【第3回】 令和7年2月25日 ・入学者選抜の定員割れが続いている。今後の府の方針は未定だが、教職員が一丸となって定員確保に向けてしっかりと対策をしていく必要がある。 ・これまでも企業説明会など、キャリア教育を1年生から段階的に実施されているが、就職してからのミスマッチなどができるだけ解消するように取り組んでいただきたい。 ・ＳＮＳで授業風景をアップしてほしいという意見について、中学校のＨＰなどは充実しているので参考にしつつ、対応していきたい。 ・教育ＩＣＴについて、どのような活用がされているかという点について、表計算ソフトやワープロソフトは情報処理等の授業で扱っており、プレゼンテーションソフトも総合的な探求の時間等で活用しているということで、今後も社会のニーズに即した技能を身につけさせてほしい。 ・企業が導入している会計ソフトを使用する際、仕訳の知識が必須なので、日商3級レベルの簿記の知識があるとよい。 ・企業が求める人材の一例として、自分に合う仕事という観点からの教育が多いが、会社の雰囲気になが合うかという感覚を大事にしてほしい。 ・働き方改革の中、広報担当も教員の業務増で大変だと思うが、ＨＰの日記を楽しみにしているので、なるべく更新できるよう対応いただきたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 確 かな 学 力 の 育 成	(1) 基礎学力の定着と授業形態の改善	(1) (ア) 実践的・体験的な学習活動を通して、主体的・対話的で深い学びの実現をめざし、生徒が興味・関心を持てる授業を行う。 (イ) 1人1台端末をはじめとするICTを効果的に取り入れ、一斉学習、個別学習及び協働学習を組み合わせることにより、生徒の学びの深化を図る。 (ウ) 教員の授業力向上をめざして、研究授業・授業見学を積極的に行い、さらにICT機器が授業などで活用されるように取り組む。	(1) (ア) 授業アンケート「授業内容に、興味・関心を持つことができたと感じている。」を3.3以上。[3.3] (イ)学校教育自己診断「授業などでコンピュータやプロジェクターを活用している。」の肯定的意見を90%以上。[91%] (ウ) 授業公開期間を年2回設定する。[2回] ・ICT機器を活用した研究授業を年1回実施する。[新規]	(1) (ア) 授業アンケート結果は3.3で目標は達成。次年度は目標を上方修正して取り組みたい。(○) (イ) 学校教育自己診断の結果は、87%であった。更なる、活用に向けて、研修や研究授業の充実を図りたい。(△) (ウ) 公開期間を6/12～25 と 11/5～20 の2回設定し、教職員相互の研鑽の機会を設けた。(○) また、ICT機器を活用した研究授業を10月17日に体育で1回実施した。(○)
	(2) ビジネス教育を通じて、力強く生き抜き、未来を切り拓くための学力の向上	(2) (ア) 資格取得において目標を明確にし、積極的に取り組む姿勢を育成するとともに、上位級の取得者増をめざす。 (イ) 「商品開発特別プログラム」の実施 生徒自身で課題を設定し、その課題を解決するための方法を習得するため、商品開発について研究する課題解決型学習を企業と連携して実施する。	(2) (ア) 各検定の1・2級合格者数を昨年度より上回ることを目標とする。 〔簿記93人、情報処理30人〕 (イ) アンケートにおいて「商品開発特別プログラムの学びの中で、グループで協働することの大切さを以前より知ることができたと思う」の肯定的回答を90%以上 [84.0%]	(2) (ア) 重点的に取り組んだ、簿記・情報処理について合格者がそれぞれ92名、44名であった。検定に向け、組織的に補修等に取り組み、効果を上げた。来年度以降は、授業の中で効果的に学習できるよう実施方法を検討し、さらなる取得数の向上に取り組みたい(○) (イ)授業アンケート結果は、肯定的な回答が86.8%であった。目標に達することはできなかったが、昨年度よりは向上した。協働的な学びをより充実させるため、「商品開発特別プログラム」以外の他の科目にも、工夫を凝らした実施方法の改善をおこないたい。(○)

府立鶴見商業高等学校

2 心豊かに力強く生き抜く力の育成	(1) 自律する心、他者と協調し人を思いやる心の育成 (2) 生徒が目標とする進路に向けた支援	(1) (ア) 人権及び人権問題に関する正しい理解を深め、女性、子ども、障がい者、同和問題（部落差別）、在日外国人、性的マイノリティ、感染症等に係る人権問題をはじめ、様々な人権問題の解決をめざした教育を人権教育として総合的に推進する。 (イ) 社会人として必要な規律ある態度を育てるため、基本的生活習慣を確立させる。 (2) (ア) 多様な進路実現に向けて、生徒一人ひとりの進路希望に応じたきめ細かい支援を行なうため、キャリア教育コーディネーター等専門家との連携を図る。 (イ) 生徒の進路意識の高揚を図るため、商品開発プログラム等、企業連携を充実させる。	(1) (ア)人権問題に関する研修を、年間3回以上を実施する。〔5回〕 (イ)挨拶運動など、生徒会等を中心とした生徒主体の活動を年2回実施する。〔新規〕 (2) (ア) キャリア教育コーディネーターの活用実績を10件以上を継続する。〔14〕 (イ) ・新規の連携企業・大学等を1社（校）以上増加させる。〔新規〕 ・就職内定率 100%を目標とする。〔100%〕	(1) (ア) 人権研修を6/11、10/30、11/6、12/18の4回実施した。次年度も継続的に様々な人権問題を学ぶ機会を設けたい。(○) (イ) 1学期に正門前での生徒会の挨拶運動を2学期には、生徒会を含めたボランティアが、学校体験入学・学校説明会の運営の手伝いを行った。来年度も積極的に、生徒が、学校行事等に係ることができるよう、実施方法を工夫したい。(○) (2) (ア) (0) 件。今年度、キャリア教育コーディネーターの予算が、70 時間から 30 時間に減少されたことにより、大幅な計画の変更を余儀なくされた。現在、効果的なキャリア教育コーディネーターの活用ができるよう計画を検討中である。(△) (イ) ・本校食堂と連携し、商品開発プログラム等を実施し、ビジネスを学ぶ機会を設けた。また、大阪商業大学と高大連携し模擬授業・学校見学を実施することができた。(○) ・就職内定率は 100%を達成できた。(○)
3 広報活動の充実	(1) 社会のニーズに応えることのできる学校づくりをめざし、ビジネス教育の有効性や取組を周知できるように広報活動を充実させる。	(1) (ア) 中学校の生徒・保護者・教員の商業高校への理解を深めるため、出前授業を積極的に行う。 (イ) 体験入学・学校説明会の充実を図り、中学生がより多く商業の授業体験をする機会を設け、商業高校の実態・入学後の学校生活、多様な進路について詳細に説明し、本校の魅力を伝えられるように工夫する。 (ウ) 学校案内やリーフレットの活用、ホームページにおいて本校の取組を積極的に広報し広く理解を得る。	(1) (ア) 出前授業の実施校数15校を目標とする。〔11校〕 (イ) ・体験入学の参加者アンケートで体験授業評価の肯定的な意見が 90%以上を維持する。〔99.0 %〕 ・体験入学や学校説明会の参加者が延べ人数で昨年を上回ることを目標とする。〔371 人〕 (ウ) ホームページの更新を積極的に行い、閲覧数が前年以上となるようにする〔22875〕	(1) (ア) 出前授業を15校に対し実施した。また外部学校説明会にも12回参加した。(○) (イ) 本年度は、体験入学を7/26、10/12、12/14 学校説明会を1/25、2/15に実施した。 ・体験入学の参加者アンケートで体験授業評価の肯定的な意見の平均は、99%であった。(○) ・参加者数は、7月96人、10月138人、12月165人、1月67人、2月59人で合計525人であった。(○) (ウ) 今年度のホームページの閲覧数は37057であった。またSNSの掲載回数は46回であり、本校広報活動の一翼を担った。〔○○○〕
4 仕事の効率化と働き方改革の推進	(1) ICTを活用して、校務に関する作業の効率化を図る。 (2) 職場環境の改善を図る。	(1) ICTを活用することで情報共有を推進し、会議時間の短縮とペーパーの削減を図る。 (2) ノー残業デー及び「大阪府部活動の在り方に関する方針」の徹底を図り、休日も含めた労働時間の縮減を図る。	(1) 校務連絡会及び職員会議の会議時間が45分以内の会議が全体の70%以上になるようにする。〔新規〕 (2) 6カ月の平均時間外労働時間が45時間以上の教員を10名以下にする〔新規〕	(1) 会議の案件・報告等を精査し運営方法の改善を図り、質・量ともに充実させることができた。両会議27回中21回（77%）45分以内に終了した。(○) (2) 働き方改革の取り組みの徹底を図り、労働時間の減少を図った。この結果、6か月の平均時間外労働時間が45時間以上の教員は7名であった。(○)